現代の国語・国語表現　単元指導計画

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 日時 | 令和〇年〇月〇〇日（〇） | 場所 | ○年○組教室 |
| クラス | １・２・３年生　全クラス | 授業者 | ○○　○○ |
| 科目名 | 現代の国語（３年生は国語表現） | 単元名 | 言葉と生活 |
| 使用  教材 | 分かりやすい説明をしよう  （案内文を作る） | 使用教科書 | 「新編現代の国語」東京書籍  （「国語表現」東京書籍） |
| 教材観 | 「学校行事（販売実習）」を題材としてファミリー層、自分たちより年下（中学生）、自分たちより年上（老人会）の３者を対象に案内文を作成する。伝える相手に合わせた適切な文章を書く力を身に付けさせたい。 | | |
| 生徒観 | 授業の中でビジネスマナーを学び、他者に対して明朗な態度で接することができる生徒が多い。学力に差があり、文章を書くことへの苦手意識が強い生徒もいるが、指定されたテーマに対して自分自身の経験をもとに発言することはできる。  進路は就職を希望する生徒から4年制大学進学を希望する生徒までおり、多様である。  また、学年が上がるにつれ、授業で指示されたことに対して前向きに取り組める生徒が増える傾向にある。 | | |
| 指導観 | 商業高校の授業でマーケテイング（顧客のニーズを探るための市場調査・分析、それらに基づく商品開発、商品の広告宣伝活動など、商品を効率的に売るための方法）について学んでいる。この学習を活かす機会として本校では毎年１１月に販売実習（対面販売）会「〇〇デパート」を実施している。この販売実習会に対して教科横断的に国語科で取り組めることはないかと考え、案内文（チラシ）の作成に挑戦した。 | | |

１　単元の目標

（１)書き言葉の特徴や役割、表現の正確さ、分かりやすさ、 適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うことができる。　　　　　　　　〔知識及び技能〕（１）イ　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　

（２）目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性を考えて、伝えたいことを明確にすることができる。　　　　　　　　〔思考力、判断力、表現力等〕B（１）ア

(３) 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。　　　　　　　　　　　〔思考力、判断力、表現力等〕B（１）イ

（４）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

２　単元の言語活動

学校行事の案内文を、それぞれの読み手（対象）を意識して作成する。

(関連：〔思考力・判断力・表現力等〕B（２）イ〕

３　単元の評価規準と評価の進め方

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 1. 書き言葉の特徴や役割、表現の正確さ、分かりやすさ、 適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。　　（（1）イ） | 1. 「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性を考えて、伝えたいことを明確にしている。　　　　（B（１）ア） 2. 「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を考えている。   （B（１）イ） | 1. 読み手に合わせた案内文を書くことを通して、目的や意図に応じて適切な題材を決めて伝えたいことを明確にし、表現や言葉遣いについて理解した上で、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を粘り強く工夫する中で、自らの学習を調整しようとしている。 |

４　指導と評価の計画（全４時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 主たる学習活動 | 評価する内容 | 評価  方法 |
| １ | ・単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。  ・異なる３者の読み手に案内文（文章）を書くことを想定し、対象ごとに留意すべき点を考える。  ・今年の学校行事（販売実習）を振り返り、その特徴をできるだけ多く挙げる。 | 〔知識・技能〕① | 「記述の点検」 |
| ２ | ・「ファミリー層」向けに案内文を書く。  ・自分たちより年下（中学生）向けに案内文を書く。  ・自分たちより年上（老人会）向けに案内文を書く。 | 〔思考・判断・表現〕① | 「記述の確認」 |
| ３ | ・推敲  ・自分が書いた案内文を自己評価する。 | 〔思考・判断・表現〕② | 「記述の確認」 |
| ４ | ・単元の学習で得た気づきをワークシートに記述し、グループや全体で共有する。  ・グループ内で相互評価を行う。 | 〔思考・判断・表現②〕〔主体的に学習に取り組む態度〕① | 「記述の分析」 |

【単元の流れ】

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・評価方法等 |
| １ | ・単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。  ・異なる３者の読み手に案内文（文章）を書くことを想定し、対象ごとに留意すべき点を確認する。  ・次年度の販売実習（学校行事）の案内文を作成するという学習課題を確認する。  ・今年度の販売実習（学校行事）を振り返り、その特徴をできるだけ多く挙げる。 | ・中学校までの既習事項を意識させる。  ・（読み手の想定）   1. 自分たちより年下（中学生） 2. ファミリー層（大人） 3. 自分たちより年上（老人会）   ＊①～③に対して文章で伝える。  ・次年度の販売実習（学校行事）の案内文を作成するため、今年度の学校行事（販売実習）を振り返り、その良さや特徴を考えさせる。 | 〔知識・技能〕①  「記述の点検」  ・中学校までの既習事項を踏まえ、異なる対象に文章を書く際に留意すべきことを記述できているか確認する。 |
| 2 | ・自分たちより年下（中学生）に向けた案内文を書く。  ・ファミリー層（大人）に向けた案内文を書く。  ・自分たちより年上（老人会）に向けた案内文を書く。 | ・案内文を書く相手の立場になり、伝えたい内容を取捨選択させ、書くようにさせる。 | 〔思考・判断・表現〕①  「記述の確認」  ・伝える内容（題材）を選び取り、より魅力ある案内文になるよう工夫したかを確認する。 |
| 3 | ・グループ内で案内文を交換し、意見交流をする。  ・推敲をする。  ・自分が書いた案内文を評価する。 | ・対象に合わせた表現、情報量、文章の構成になっているかを確認させる。  ・対象に応じて工夫した点を、自分で振り返るとともに、グループ内のメンバーに説明する。  ・読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章を推敲させる。  ・自己評価、相互評価ともルーブリックを用いる。 | 〔思考・判断・表現〕②  「記述の確認」  ・対象に合わせ、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫しているか確認する。 |
| ４ | ・単元の学習で得た気づきをワークシートに記述し、グループや全体で共有する。  ・グループ内で相互批評を行う。 | ・第1時で確認した留意点、グループでの意見交換も踏まえ、改めてどのような伝え方の工夫が必要だと気づいたかを記述させる。 | 〔思考・判断・表現〕②  「記述の確認」  ・対象に合わせ、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫しているか確認する。  〔主体的に学習に取り組む態度〕①  「記述の分析」  ・振り返りの記述から、目的や意図に応じて適切な題材を決めて伝えたいことを明確にし、表現や言葉遣いについて理解した上で、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫したかを分析する。 |

≪本授業における評価の実際≫

５　観点別学習状況の評価の進め方

（１）［知識・技能］の評価

[知識・技能]①の「正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使っている。」状況をBと捉え、第１次で記入したノートの記述を中心に確認して評価をする。年齢層に応じた言葉遣いをしていればおおむね満足できる状況であると考える。

　　年齢層に応じた表現ができていない、努力を要すると判断する状況をCと捉え、個別に声をかけてアドバイスを行う。

（２）［思考・判断・表現］の評価

　　［思考・判断・表現］①の「書くこと」において、「目的や意図に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、伝えたいことを明確にしている。」状況をBと捉え、第２次で取り組む案内文の記述を中心に確認して評価をする。書き上げた案内文を読み、年齢層に応じた表現であり、相手に内容が伝わる文章になっていればおおむね満足できる状況であると考える。

　　年齢にふさわしくない表現が使われ、配慮がなく、努力を要すると判断する状況をCと捉え、相手に何が一番伝えたいのかということを考えるようにアドバイスを行う。

［思考・判断・表現］②の「書くこと」において、「読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を考えている。」状況をBと捉え、年齢層に応じた案内文が書けていればおおむね満足できる状況であると考える。

　　読み手に理解が得られず、努力を要すると判断する状況をCと捉え、相手に伝えるための情報を取捨選択するようアドバイスを行う。

（３）［主体的に学習に取り組む態度］の評価

［主体的に学習に取り組む態度］①の「読み手に合わせた案内文を書くことを通して、目的や意図に応じて適切な題材を決めて伝えたいことを明確にし、表現や言葉遣いについて理解した上で、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を粘り強く工夫する中で、自らの学習を調整しようとしている。」状況をBと捉え、読み手に目的や意図を伝えることができる案内文に仕上がっていればおおむね満足できる状況であると考える。

　　相手に案内文を読んでもらい指摘される箇所があった場合、推敲を要すると判断する状況をCと捉え、相手の立場になって文章を推敲するようアドバイスを行う。

【その他】

　今年度の販売実習（対面販売）会「〇〇デパート」を終えて、「集客率を上げるにはどのように宣伝をしたら効果があるのか」を生徒の経験をもとに考えさせた。そこで案内文（チラシ）を書く条件を次のように設けた。

・案内文（チラシ）はA4サイズ1枚で作成する。＊限られた範囲内で体裁よくまとめる。

・年齢層に応じた案内文（チラシ）を作成する。＊中学生・ファミリー・老人会

・文章のみで書く。＊対象に応じた表現や言葉遣いを工夫して書かせることを目的としている。

・全学年とも同じ題材で取り組ませる。＊学年を超えて共有（交流）することを目的としている。